

CHARTERED SEPT.11.1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2018 - 19 会長主題

地元とつながろう

あずさ部長	廣瀬 健 (甲府 21)	「未来はそれに備える人のものである」
東日本区理事	宮内友弥 (東京武蔵野多摩)	「為せば、成る」
アジア太平洋地域会長	田中博之 (東京多摩みなみ)	“ Action ”
国際会長	Moon Sang Bong (韓国)	“ Yes, we can change ” 「私たちは変えられる」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 尾内昌吉 / 会計 中村孝誠
直前会長 上妻英夫 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 星住秀一

2019年 4月 例会 <LT の月>

と き 4月16日 (火) 14:30-16:30
と ころ 早稲田奉仕園 102号室

受付 尾内規子さん・飯野さん
司会 中村さん
開会点鐘 会長
モットー・ワイズソング 一同
聖句朗読・祈祷 尾内さん
ゲスト・ビジター紹介 会長
ハッピーバースデー

卓話 「外国から来た方達は何に困っているの
でしょう」
松村宇久馬さん (諏訪町会総務部長)

ニコニコ 一同
報告・連絡事項 各担当
閉会点鐘 会長

当番 (第2班) 中村、尾内 (規)、飯野

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
義務はすべての権利に伴う 』

“ To acknowledge the duty
that accompanies every right ”

今月の聖句

正しい人でも、正しさから離れて不正を行
うなら、その不正のゆえに彼は死ぬ。また、
悪人でも、悪から離れて正義と恵みの業を
行うなら、それゆえに彼は生きる。

エゼキエル書 33章 18-19節

4月 HAPPY BIRTHDAY

増野 肇さん 1日 功能文夫さん 18日
尾内規子さん 24日 飯島隆輔さん 25日

会費の納入は、会計(中村君)への納入または
下記銀行口座への振込みをお願いします。
三菱 UFJ 銀行 高田馬場駅前支店
普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

3月報告

会員在籍数		13名
例会出席者	メ ン	11名
	メ ネット	1名
会員出席率		85%
ゲスト・ビジター		3名
		合計 14名
ニコニコ	7,565円 (累計 39,101円)	
B F	国内切手 400g	外国切手 ー g



2019年3月例会 報告

と き：2月19日 14:30-16:30
 ところ：早稲田奉仕園 102号室
 出席者：浅羽、上妻、飯島、飯島（愛）、飯野、
 尾内、尾内（規）、金本、功能、中村、
 増野、 11名
 ゲスト・ビジター：
 ユウウエーさん（卓話者、ミャンマーレ
 ストラン「ミンガラバー」経営者
 松村宇久馬さん（諏訪町会）
 小原史奈子さん（国際・交流事業主任、
 たんぽぽ）
 村野 繁さん（世田谷）
 福島多恵子さん（元 目黒） 5名
 計 16名

司会 上妻さん

浅羽会長の主題「地元とつながろう」に沿って、高田馬場でミャンマー料理店を営んでおられるユウウエーさんからお話を伺いました。

「ミンガラバー」というお店は2014年8月の山手クラブの納涼例会を楽しんだお店です。今回は、お店でお忙しいユウウエーさんに中村さんからお願いして貴重な時間をさいていただいたのでした。

卓話「出会いと学び—私の日本体験」要旨

- ・私の名前はユウウエーです。ミャンマーの名前には姓と名の区別はありません。
- ・31年前、1988年2月に茨城県の銚田町（現在は市）に来て、茨城キリスト教大学で日本語を学んだ。姉が先に日本に来ていた。
- ・日本とミャンマーをつなぐ何かをしたいと料理の店を始めた。
- ・学校で習った日本語が力になって、言葉の壁を乗り越えられた。例えば、「いいです」とか

「すみません」という言葉一つでもいろいろな場合で使う意味合いが違うが、伝えたい気持ちで言えば通じる。



- ・母から、人間は信用が第一と教わった。
- ・ミャンマーは多民族国家で、一番多いのはミャンマー族である。
- ・日本在住者は民族ごとにグループを作っている。約25,000人の日本在住者がいる。
- ・日本に行って働くためにブローカーに頼むと、働いて18万円の収入があっても、10万円はブローカーにとられて本人の手元には8万円しか残らない。

.....

浅羽さんが用意した「ミャンマー豆知識」の資料によると、一番多い民族がミャンマー族でその他135の少数民族がいる。また、新宿区在住外国人は、中国、韓国、ネパール、ベトナムに続いてミャンマー（約2,200人）、台湾の順である。これについて、松村さんからは、旧戸塚町区域だけで見ると中国、韓国の次にミャンマー人が多いというお話があった。

3月 ヨルダン会報告

と き：3月27日（水）14：30～16：30

ところ：華屋与兵衛 高田馬場店

出 席：浅羽、上妻、飯野、尾内、功能
議題

1、3月例会の振り返り

地元とのつながりを深めていく試みの第一歩になった。

2、4月例会

山手センターの会場確保が未確定のため早稲田奉仕園の集会室を確保してある。

3、今後の例会の持ち方について意見交換

- ①集まりやすい場所で、
- ②集まりやすい時間に、
- ③食事を共にすることでお互いに親しくなるの3条件が大事だ。

という意見が出され、これについて、高齢者のクラブと考えれば、昼間の開催、または、寒い時期は昼間の開催、あるいは開催時間を17時～19時と早めにはできないか、という意見等が出された。

4、東日本区からのEMCアンケートについて、クラブとしての回答案を検討した。

5、次年度ロースター原稿のチェック

6、諸報告

以上

4月例会の卓話者

松村宇久馬さんから自己紹介を頂きました。

一才から大学まで一貫教育の中で育ちましたが、覚えているのは「(他の人のために)リーダーになりなさい」「力が出るもの出せるもの」。

大学時代にはシステムについて学び、入社後は皆が楽しく働ける 仕組み作りを行ってきました。(少なくとも、当人はそう思っています)

退職後は、地域のため、困っている外国人のためにと、諏訪町会の総務部長と、新宿区の日本語ボランティアを担当しています。

YMCAニュース

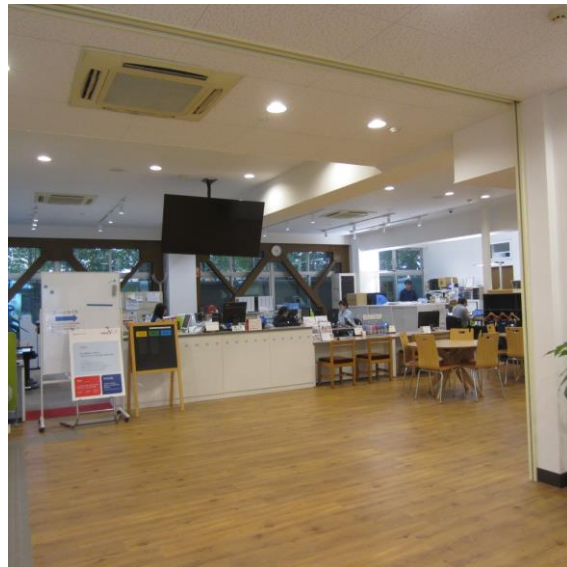
1. 街頭募金ありがとうございました

東日本大震災8年目にあたり、今年も3月10日に高田馬場駅前街頭募金を実施しました。コミュニティー活動チームの野木さんを中心に、ワイズ、高等学院、リーダー、スタッフ、プール参加メンバーなど37名が参加をしてくれました。63,286円の募金が寄せられました。この募金は、東日本大震災復興、並びに熊本地震をはじめ国内災害への復興支援に用いさせていただきます。

2. 第17回会員大会

5月25日に会員大会が開催されます。例年、東陽町センターで実施していましたが、今年は綺麗になった山手センターで披露を兼ねて行われます。ぜひご参加ください。

(星住秀一)



改装された山手センター1階事務室

東京サンライズクラブ 設立 30 周年記念例会 報告

功能文夫



東京サンライズクラブ設立 30 周年記念例会が 3 月 23 日（土）12：00～15：00 に、日本橋のブラッセリー東洋で開催された。

第1部 記念例会

大谷サンライズ会長から歓迎挨拶の後、田中アジア太平洋地域会長の祝辞、宮内東日本区理事の祝辞があり、親クラブである山手クラブから会長代理として機能が祝辞を述べた。

続いて平成元年から平成 31 年（1989～2019）に至るサンライズ 30 年の歩みが山中湖センターでのワーク奉仕など多彩な活動の写真を映写しながら紹介された。「東京サンライズ 30 年の歩み」という資料がプログラムとともに配布されたが、その中にはメンバーの推移もよくまとめられていて興味深い。

30 周年記念事業として今年の東日本区大会をサンライズクラブがホストしており、ぜひ多数の参加をとの呼びかけがあった。そしてもう一つ、山中湖センターでの 30 周年特別ワークを実施することである。

第2部 祝会・懇親会

長津さんの司会で、まず IBC の台北ユニオン、DBC の東広島および京都プリンスの出席者からそれぞれ祝辞が述べられ、八王子クラブの久保田ワイズの乾杯があった。そして、童謡 100 周年に寄せて～北原白秋を歌おう～という朗読と歌と

話の時間を挟みながら会食・懇親の時を楽しんだ。続いてクラブごとに出席者の紹介、川越クラブの 20 周年、宇都宮クラブの 40 周年の各記念行事のアピールがあり、最後に小山さんが感謝の言葉を述べて、サンライズの 30 周年記念例会はめでたく三本締めとなった。

出席者はあずさ部以外のクラブからも広く多数参加されており、総数 88 名、日本橋での記念会は打ち解けて楽しく盛会であった。山手クラブからは中村、機能が出席した。



チャーターメンバーの大谷、小山、長津ワイズ

<設置場所が移りました>

○山手センターの 1 階事務室入口の上部にあったこのステンドグラスは今回のセンター改修工事の結果、1 階から 2 階へ上る階段の踊り場の壁面に移りました。何が描かれているかよく見ることが出来ます。



65歳の雑感

金本 伸二郎

1月27日、65歳の誕生日で定年を迎えた。約1か月延長勤務をし、本年2月をもって完全に会社員人生を終えた。私が長く勤めていた職種が「健康保険」という分野であったので、同じ職務を担っている他の企業の方とも接点があり、勤務先の企業とともに、他の企業の方々からも退職をお祝いしていただいたことは、仕事冥利につきる思いだった。残念なことといえば、最終入社日、帰宅したときに家で待っている人がいなかったことであろうか。

さて、退職したら、それまでの仕事との関わりはきっぱりと縁を切り、全く新しい歩みをした方が良いとの意見もあることは承知しているが、今まで培ってきたことを、後輩たちに分かちあえるものがありそうなので、4月からは細々とはあるが、アドバイザー的な仕事を行っていくこととしている。それにしてもつくづく、今までの仕事は会社の看板があつてようやくできたのであり、自分の力では何もできない本当にチッポケなものだったのだ、と感じるこの頃である。

私も65歳の前期高齢者になった。多くの高齢者が我が国の社会保障制度の貧困さを嘆くが、国の借金のことを考えると致し方なく、無駄使いはできない。せいぜい自分の健康管理だけは責任を持ち、若い方たちにはなるべく迷惑をかけない生活を送りたいものだ。

ところで、昨年12月に家内が天に召され、ここに来て退職ということになり、多くの方々が生生活を中心にご生活しているのか心配してくださっている。真顔であと3年生きられるか心配だと言う友人の輩も複数いる。そうならないように、何事にも前向きに生きていかねばならないと思っている。僅かな仕事も、健康管理も前向きに取り組もう。それよりも何よりも、今日までの私のワイズの活動は決して前を向いていると言えるものではなかったのだから、先ずはここから、山手から始めるのが筋と思っている。

おたより

<上妻英夫さん>「彼岸朝 吹雪が山荘つつみけり」3月23日朝の猛吹雪に驚きました。それでも紅梅の花が少し咲いているのを見ると、春はもうすぐ。

編集後記

○3月30日に国際基督教大学(ICU)に行ってきた。桜が満開であった。この大学を会場にしてワイズの部会が何度か開催されたことがあったのを思い出した。オリンピックが開催される新国立競技場の設計で注目されている隈研吾が設計した新しい体育館も見学してきたが、柱や天井に木が使われていてその木目がやわらかく美しかった。

○4月1日、新元号が発表されて、そのニュースでマスコミは大騒ぎであった。「令和」の大きな文字がテレビ画面に大寫しになったときは、一瞬「ナニコレ」と思った。「平成」の発表の時は、「平らかにして成る」なるほどと素直に納得したのとは違った。

○正直のところ私の頭に真っ先に浮かんだのは「命令」の「令」だった。そして戦争末期の「大和(だいわ)一致」を思い出したのであった。

○新元号の出典は万葉集巻五にある梅花の宴の歌の序文からだとのこと、万葉集を取り出して開いてみた。「初春令月、気淑風和」「令月はよい月。初春正月をほめていう。」「気はこころよく、風は和らいでの意」とあった。(岩波、日本古典文学大系、萬葉集 二)

○たくさん外国からの人が暮らす今の日本、日本人も外国人も共に、こころよく、やわらいでくらすよい社会でありたいと思う。(F. K)

